コンテンツ緊急電子化事業 電子書籍制作仕様書

2013年2月28日 (ver 1.8)

コンテンツ緊急電子化事業プロジェクトチーム JPO 日本出版インフラセンター 標準化委員会 この「制作仕様書」(本文書)と「緊デジ制作ガイドライン」は改定される場合があります。常に最新版を緊デジサイトからダウンロードして確認の上、作業にかかってください。

http://www.kindigi.jp/download/

更新履歴

2013年2月28日 ver. 1.8 ビルド前に文法チェックツールをかけることを明記。リフロー型の「底本奥付」小見出しは画像内に入れるように変更。 納品するファイルを明確にするため、資料1のファイル/フォルダ保存・命名ルールを詳しく規定し直した。

2012年11月14日 ver. 1.7 フィックス、リフローともに「EPUB 3制作時の注意」を追加。目次リンク制作の作業手順を追加。フィックス型のスキャン画像規定に「全ページ同一サイズにすること」「見開き画像のある底本の断裁はノド部分の欠損に注意すること」「カラーのスキャン画質や色味について不安がある場合はPLに相談すること」を追加。リフロー型の「縦組み(右閉じ左開き)/横組み(左閉じ右開き)」を「縦組み(右綴じ)/横組み(左綴じ)」に変更。

2012年10月5日 ver. 1.6.1 リフロー型EPUB 3の目次リンクを片リンクに変更。

2012年9月25日 ver. 1.6 Aのフィックス型をA-1(一般書)とA-2(コミック)に分け、コミックの仕様を追加。電子化クレジットのうち、電子書籍制作日を必須から任意へ変更。フィックス型TIFF画像の圧縮形式に、LZWのほかPackbits、zipなどの可逆式を追加。「緊デジ制作ガイドライン」にEPUB 3を追加。納品方法を追加。緊デジ版XMDF制作ツールの入手先を追加。

2012年8月2日 ver. 1.5 (1.4は未配布)

単独表紙画像の保存形式をTIFFからJPEGに変更。フィックス型「アーカイブ用中間作業ファイル」の納品形式を修正。 緊デジ仕様XMDFビルダーのライセンス費用に関する説明を訂正。電子化クレジットのうち、JP-eコードを削除、著作権 の表記を変更。リフロー型の校正手順を修正。

2012年6月25日 ver. 1.3 電子化クレジットの見本体裁を変更。.bookライセンス費用に関する説明を修正。アーカイブ用中間作業ファイル (3) の納品形式を修正。

2012年6月7日 ver. 1.2 ファイルサイズとJPEG圧縮率についての規定を追加。

2012年6月1日 ver. 1.1 フィックス型制作仕様の「2ページ目は白にする」を削除。フィックス・リフロー型とも巻末に挿入する「電子化クレジット」の内容を大幅に変更。電子出版コードの略称を「eコード」→「JP-eコード」に変更。「緊デジ制作ガイドライン」についての説明を追加。リフロー型に底本組方向の補足文ページを追加。リフロー型で本文画像の取り出し方を「できるだけDTPデータから取り出す」→「底本からスキャンするかDTPデータから取り出す」に変更。リフロー型の目次「小項目」を「片リンク」→「片リンクまたは相互リンク」に。テキスト作成時の誤入力率を99%に。フォーマットポリシーの削除。その他、誤字の修正など。

2012年5月8日 ver. 1.01 誤字の修正のみ。

2012年5月8日 ver. 1.0 発表。

目次

出版社様向け電子書籍仕様書	1
A-1:フィックス型電子書籍(一般書)	2
A-2:フィックス型電子書籍(コミック)	5
B-1:リフロー型電子書籍(DTPデータから制作する場合)	6
B-2:リフロー型電子書籍(印刷底本からテキスト作成する場合)	9
制作会社様向け電子書籍仕様書	10
A-1:フィックス型電子書籍(一般書)	10
A-2:フィックス型電子書籍(コミック)	15
B-1:リフロー型電子書籍(DTPデータから制作する場合)	16
B-2:リフロー型電子書籍(印刷底本からテキスト作成する場合)	21
咨 料	22

[※]出版デジタル機構に代行依頼した場合のデータは、機構が保存します。出版社が保存・バックアップの体制などを用意する必要はありません。

[※]本仕様書で指定されていない詳細な記述ルールなどは、緊デジのサイトで配布している「緊デジ制作ガイドライン」を参考にしてください。

出版社様向け 電子書籍制作仕様書 ver 1.7

この仕様書は、経済産業省の「コンテンツ緊急電子化事業」(略称・緊デジ)によって補助される電子書籍の制作物について規定するものである。策定は緊デジを受託した日本出版インフラセンター(JPO)の標準化委員会が行った。

今回の緊デジ事業では、1年間に6万冊の書籍を電子化することを想定している。事業の対象は既刊書あるいはこの1年間に出版される書籍であり、電子出版のみの書籍は対象としない。

緊デジの標準化委員会では、制作する電子書籍の形式を大きく4つに分類した。

• A-1:フィックス型 (一般) 電子書籍

• A-2:フィックス型 (コミック) 電子書籍

• **B-1:リフロー型(テキスト)電子書籍**(DTPデータなどから制作する場合)

• B-2:リフロー型 (テキスト) 電子書籍 (印刷底本からテキスト作成する場合)

Aのフィックス型は、底本からのスキャン画像をひとまとめにして電子書籍としたものである。A-1は文字もの、A-2のコミックはより高画質となる。Bのリフロー型は元の書籍から原稿テキストを取り出し、本文として再配置する形式のため、DTPデータなどからテキストを取り出して利用するB-1か、新たにテキストを入力し直すB-2に分かれる。

A-1:フィックス型	DTPデータなどのテキストがない、もしくはデータが古い既刊書 レイアウトが複雑か、図版点数の多い文字ものの書籍 特殊な記号や数式などを多用している文字ものの書籍
A-2:フィックス型	コミック(見開き表示やスクリーントーン表現など)
B-1:リフロー型	近年のDTPデータなどが残っている書籍 文章中心の読みもの書籍(小説、エッセイ、 新書、 文庫など)
B-2:リフロー型	DTPデータが残っていない書籍 文章中心の読みもの書籍(小説、エッセイ、 新書、 文庫など)

出版社は希望によってA-1、A-2、B-1、B-2の電子書籍を選択することができる。しかし、それぞれに特性や必要とされる原稿、制作コストなどが大きく違うため、必ずしも希望した形式の電子書籍を制作できるわけではなく、入稿後(底本到着後)にJPO事務局より制作可能な形式が提示される場合がある。

以下の項目では、それぞれの電子書籍形式について詳細を説明する。なお、具体的な技術仕様は後半の「制作会社向け 仕様書」に記述されている。

A-1:フィックス型 (一般) 電子書籍

緊デジで定義するフィックス型とは、印刷された底本をデジタルスキャンし、その画像を1冊の電子書籍としてまとめたものを言う。A-1では文章中心の読み物書籍のうち、DTPデータなどのテキストがないもしくはデータが古い既刊書や、レイアウトが複雑か、図版点数、特殊な記号や数式などの多い書籍、英語以外の外国語などを多用した書籍を想定している。緊デジの仕様では文字ものの一般書籍を想定しており、写真集や絵本など図版の画質や色味が重要なものは個別に相談を受けている。なお、本文の検索は出来ない。

●入稿データ

底本:1冊(可能な場合は2冊)カバー付き。これを入稿データとする。

- 使用する版・刷は出版社の選択により、入稿されたものを「底本」とする
- 底本はスキャン画像化するため、汚れ・破れ・乱丁のないものを入稿する
- 底本は断裁スキャンされ作業終了後に出版社へ原稿として返却される。不要な場合は出版社によって廃棄する

●制作データ

本事業による制作データは4種類となる。電子書籍フォーマットは技術変化が激しいので、将来のフォーマット再変換・再利用のためにアーカイブ用ファイルを制作する。

- 1. カバーおよび本文をスキャンし、補正したTIFF画像ファイル(→ アーカイブ用画像ファイル)
- 2. 配信用にビルド (パッケージ化) した電子書籍ファイル (→ 配信用電子書籍ファイル)
- 3. ビルド直前のソースおよび画像を含む作業ファイル一式(→アーカイブ用中間作業ファイル)
- 4. 先頭から総ページの10%分を抜き出した試し読みファイル (→ 試し読み用電子書籍ファイル)

●電子化の範囲

- 表紙カバー(ジャケット)は折り返しまですべてを電子化し、アーカイブ保存する
- 底本は口絵、写真、目次、索引、奥付、広告まで、すべて電子書籍化する。ただし、不要な図版やページがある場合は、出版社が底本への付箋などで指示をする
- 本文中の白ページも、そのまま電子書籍化する
- 表1、表2、表3、表4、見返しは原則として電子化しない。ただし、見返し等に印刷があり必要とする場合は、出版 社が底本への付箋などで指示をする
- *スキャン解像度や傾き、ファイル形式など、詳細な画像ファイルの仕様などは制作会社向け仕様書を参照。

●配信用電子書籍の制作仕様

- 版面周囲(天地小口ノド)の余白はトリミングせず底本そのままの余白表示とし、トリミングはビュアー側の機能に任せる
- 電子書籍1ページ目は表紙カバーとする
- 購入者の印刷・コピーは禁止とする
- 閉じ方向と見開きページの指定を行い、見開き表示の時に表示がずれないようにする
- 目次以外の索引やURLなどへはリンク機能を使用しない
- 販売用のDRMは各配信書店側でかける
- JPEGの圧縮率は規定しない。にじみやノイズが出ない範囲で圧縮をかけ、サイズを小さくする

目次

- XMDFと.bookでは、目次ページ画像の該当文字列領域から該当本文画像へクリッカブルマップによる片方向の目次リンクを作成する。EPUBではナビゲーション文書による目次を制作し、クリッカブルリンクは行わない
- 目次リンクは、章または節(章の上位に部がある場合は部を含む)の1階層下まで(上から二階層まで)とする。ただし、底本の目次にノンブル表記がない場合は、ノンブル表記のある階層までとする

電子化クレジット

● 巻末に以下の電子化クレジットを追加する。 内容は版元が出版社メニューにて入力する。フォントやサイズ、表記方法などは制作会社が判断する

書名 [必須] /著者名 [必須] /発行者名 [版元の任意] /発行 [必須] / (発行連絡先住所・URLなど) [版元の任意] /著作権 [版元の任意] /電子書籍発行日 [版元の任意] /電子書籍制作日 [版元の任意] /電子書籍制作会社 [推奨] / (その他注意事項:改ざん・複製禁止の断り書き。著者プロフィール。デザイン・イラスト・写真等の権利処理情報など最大500文字まで) [版元の任意]

書名 銀河鉄道の夜

著者名 宮沢賢治

発行 JPO出版

〒○○○-○○○ 東京都新宿区XXX町○-○- 電話 ○○○○-○○○

著作権 (c) Kenji Miyazawa 20XX

電子書籍発行日

電子書籍制作会社 〇〇〇〇印刷株式会社

ビルド (パッケージング/バイナリ化)

- 配信用ファイルは、XMDF(v2.x)=.zbf形式、または.book形式、もしくはEPUB 3形式でビルドする
- 指定解像度はJPEG/長辺1536ピクセル。ターゲットデバイスは7インチタブレットとする
- 配信用電子書籍のファイル名は 電子出版コード (JP-eコード:巻末資料2参照)+拡張子とする

ビルドのフォーマットは指定がなければ事務局がXMDF、.book、EPUB3のうちいずれかを選択する。特に指定をする場合は出版社が制作指示書に希望フォーマットを選択(機能的な差はほとんどないが、見開きでの校正確認が必要な場合は.bookもしくはEPUB3を選択)する。

●校正

- 制作会社の作業が完了すると、電子書籍ファイルが指定の校正用配信サーバーへ登録される
- 出版社は校正用配信サーバーから電子書籍ファイルをダウンロードし、PC(Windows)上で確認。修正がある場合は制作会社へ指示をする
- フィックス型の校正は原則として確認の1回のみで責了とする
- 出版社確認用の校正ビュアーによる修正方法などは、 緊デジサイト上で配布中の「校正の手引き」を確認

●試し読み用ファイル

- ビルドした電子書籍から、先頭から総ページの10%分を残して、残りを削除したものを「試し読み用」のファイルとする
- 巻末の電子化クレジットは次のように表示される

試し読みはここまでとなります。この続きは製品版でお楽しみください。

●ハウスルールと個別対応

ここまでの仕様を緊デジ事業の標準仕様とする。標準以外の仕様を希望する場合や、電子化についてのハウスルールを すでに採用している出版社で、それを踏襲させたい場合は、中核企業のパブリッシングリンクへ自社のハウスルール仕 様書等を提示の上、別途相談とする。

A-2:フィックス型(コミック)電子書籍

フィックス型のうち、内容がコミックや漫画である場合はA-2方式での製作となる。1冊の中に文章や文字ページが混ざっている場合、コミック扱いとするかどうかは版元の判断による。

A-2はA-1に比べてスキャン画質やモアレの低減、ゴミ取りなど画像品質の要求が高くなり、制作費も高く設定される。 線画画像のスキャン品質が文字ものに比べて高くなる以外は、A-1と同じ仕様となる。

●入稿データ

底本: 1冊(可能な場合は2冊)カバー付きで各制作会社へ入稿

- ただしコミックの場合は印刷本からのスキャンだとモアレの発生が避けられないため、出版社が高解像度の画像データ(吹き出し内の文字入り)を所持している場合は、底本プラス画像データでの入稿も受け付ける
- 吹き出し内の文字が入っていない画像のみでの入稿は受け付けられない
- 画像データでの入稿形式は300ppi以上のJPEG、TIFF、PDF、PSDなど。CD-RやDVD-Rなどに保存して底本に添付する

●納品データ

- ●スキャン範囲/範囲
- ●スキャン画像の保存フォルダ

以上はすべてA-1と同じ。

●配信用電子書籍の制作

可能な限りゴミ取りおよびモアレの低減を行う。方法や数値に関しては各制作会社の裁量に任せる 見開きページの表示で左右の位置ズレが起きないよう、版面の位置合わせを厳密にする 他はすべてA-1と同じ。

●出版社による校正

すべてA-1と同じ。

→ 納品ファイル(1)(2)(3)(4)

画像データによる入稿で画像が600ppi以下の場合は、入稿時の解像度のままファイル名を緊デジ仕様にしてアーカイブ保存(1)する。

配信用電子書籍ファイル(2)、 中間作業ファイル(3)、 試し読み用電子書籍ファイル(4) についてはすべてA-1と同じ。

B-1:リフロー型電子書籍(DTPデータから制作する場合)

ここで定義するリフロー型とは、底本に掲載された文章と同じ原稿をテキスト配置した電子書籍のことを言う。リフロー型で想定しているのは、小説、エッセイ、ノンフィクションなど文章ものの書籍で、文庫や新書などのようなシンプルな読み物に限られる。B-1では印刷時のDTPデータがあることが前提となる。

リフロー型の電子書籍では、文中のボールドやイタリック、複雑な数式、英語以外の外国語などは表現できない。

●入稿データ

DTPデータ:印刷入稿時に使用したDTPデータをCD-RもしくはDVD-Rに保存し、底本へ添付する。

- InDesign CS以上、QuarkXPress 4.1以上を限定
- CD/DVDには、OSバージョンおよびアプリケーションバージョンをわかる範囲で記入する

底本:1冊(可能な場合は2冊)カバー付き。つけあわせ確認などに使用する。

- 版・刷は出版社の選択による。底本とDTPデータで違う場合は、指示書でどちらを採用するか指定する
- 底本は作業工程上、断裁されることがある
- 底本は作業終了後に出版社へ原稿として返却される。不要な場合は出版社によって廃棄する

●制作データ

本事業による制作データは4種類となる。電子書籍フォーマットは技術変化が激しいので、将来のフォーマット再変換・再利用のためにアーカイブ用ファイルを制作する。

- 1. カバーをスキャンし、補正したTIFF画像ファイル一式(→アーカイブ用カバー画像ファイル)
- 2. 配信用にビルド(パッケージ化)した電子書籍ファイル(→配信用電子書籍ファイル)
- 3. ビルド直前のソースおよび画像を含む作業ファイル一式(→アーカイブ用中間作業ファイル)
- 4. 先頭から総ページの10%分を抜き出した試し読みファイル (→ 試し読み用電子書籍ファイル)

●電子化の範囲

- 表紙カバー(ジャケット)は折り返しまですべてを電子化し、アーカイブ保存する
- 本文は、扉から目次、本文、あとがき、索引や装幀クレジットなどまですべて入れる。ただし、不要な範囲のある場合は、出版社が底本への付箋などで指示をする
- 巻末の書籍広告は入れない
- 表組や複雑なレイアウトの体裁を崩せないページはスキャン画像として挿入する
- 奥付は底本の奥付ページをスキャンし、「底本奥付」という小見出しを立てて画像を巻末に挿入する

●画像(イラスト・写真・図表)

- 本文中のイラスト・写真・図版、表組などは、すべてビットマップ画像(JPEG/PNG)として挿入される。画像ごとに未使用を選択する場合は、出版社が底本へ指示の付箋を付ける
- ビットマップ画像のサイズは、ターゲットデバイスである長辺1536ピクセル以内とする
- 小画像(ページ幅60%以内)は、文章に追随するように、サイズを調整して近傍の段落の間へ挿入する
- 大画像 (ページ幅60%以上) は、 サイズを調整して、単独1ページで表示する
- 図表のキャプションやクレジット文字などは画像と一緒にビットマップ化する

●配信用電子書籍の制作仕様

- 原稿となる本文テキストは、DTPデータより取り出す
- 縦組み(右綴じ)/横組み(左綴じ)の指定は底本に合わせる
- 購入者の印刷・コピーは禁止とする
- 販売用のDRMは各配信書店側でかける

目次

- 目次リンクを作成する。
- 目次リンクは、章または節(章の上位に部がある場合は部を含む)の1階層下(上から二階層まで)までとする。ただし、底本の目次にノンブル表記がない場合は、ノンブル表記のある階層までとする
- XMDFと.bookは章・見出しなどの大項目は相互リンク、その下の小項目は片リンクとする。EPUB 3の場合は、本文内の目次ページから片リンクを貼り、ナビゲーション文書には表紙・目次・電子化クレジットの最低限のみを片リンクで記述する。
- 本文中のインターネットURLや索引、注釈などはリンク設定しない
- 詳細は制作ガイドラインを参照

外字・異体字

- JIS第一、第二水準および半角文字の範囲を超える外字や記号は、PNG画像をインラインの外字指定で配置する
- PNG画像は、白黒インデックス/128×128ピクセル とする
- ファイル名は [cid- + 5桁のCID番号 + 拡張子] とする。例: cid-08370.png

電子化クレジット

● 巻末に以下の電子化クレジットを追加する。 内容は版元が出版社メニューにて入力する。フォントやサイズ、表記方法などは制作会社が判断する

書名 [必須] /著者名 [必須] /発行者名 [版元の任意] /発行 [必須] / (発行連絡先住所・URLなど) [版元の任意] /著作権 [版元の任意] /電子書籍発行日 [版元の任意] /電子書籍制作日 [版元の任意] /電子書籍制作会社 [推奨] / (その他注意事項: 改ざん・複製禁止の断り書き。著者プロフィール。デザイン・イラスト・写真などの権利処理情報など。最大500文字まで) [版元の任意]

書名 銀河鉄道の夜

著者名 宮沢賢治

発行 JPO出版

〒○○○-○○○ 東京都新宿区 X X X 町○一○一○ 電話 ○○○○一○○○○

著作権 (c) Kenji Miyazawa 20XX

電子書籍発行日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

電子書籍制作会社 〇〇〇〇印刷株式会社

ビルド (パッケージング/バイナリ化)

- 配信用ファイルは、XMDF(v2.x)=.zbf形式、.book形式、 またはEPUB 3形式でビルドする
- 指定解像度はJPEG/長辺1536ピクセル。ターゲットデバイスは7インチタブレットとする
- 配信用電子書籍のファイル名は 電子出版コード (JP-eコード: 巻末資料2参照) +拡張子とする
- JPEGの圧縮率は規定しない。にじみやノイズが出ない範囲で圧縮をかけ、サイズを小さくする

ビルドのフォーマットは指定がなければ事務局がXMDF、.book、EPUB3のうちいずれかを選択する。特に指定をする場合は出版社が制作指示書に希望フォーマットを選択(見開きでの校正確認が必要な場合は.bookもしくはEPUB3を選択)する。

●校正

- 制作会社の作業が完了すると、電子書籍ファイルが指定の校正用配信サーバーへ登録される
- 出版社は校正用配信サーバーから電子書籍ファイルをダウンロードし、PC(Windows)で確認。修正がある場合は制作会社へ指示をする
- リフロー型の校正は原則として初校・再校の2回のみで責了とする
- 出版社確認用の校正ビュアーによる修正方法などは、緊デジサイト上で配布中の「校正の手引き」を確認

●試し読み用ファイル

- ビルドした電子書籍から、先頭から総ページの10%分を残して、残りを削除したものを「試し読み用」のファイルとする
- 巻末の電子化クレジットは次のように表示される

試し読みはここまでとなります。この続きは製品版でお楽しみください。

●ハウスルールと個別対応

ここまでの仕様を緊デジ事業の標準仕様とする。標準以外の仕様を希望する場合や、電子化についてのハウスルールを すでに採用している出版社で、それを踏襲させたい場合は、中核企業のパブリッシングリンクへ自社のハウスルール仕 様書等を提示の上、別途相談とする。

B-2: リフロー型電子書籍(印刷底本からテキスト作成する場合)

DTPデータが無く、印刷底本よりテキスト作成をするリフロー型電子書籍の制作では、B-1と比べて入稿データ形式と校正方法のみが違い、それ以外はまったく同じとなる。

●入稿データ

底本:1冊(可能な場合は2冊)カバー付き

- 底本からの原稿テキスト作成方法(OCR利用などの入力方法)は、特に規定しない
- 版・刷は出版社の選択による
- 底本は作業工程上、断裁されることがある
- 底本は作業終了後に出版社へ原稿として返却される。不要な場合は出版社によって廃棄する
- ●制作データ
- ●電子化の範囲
- ●画像(イラスト・写真・図表)
- ●配信用電子書籍の制作仕様

すべてB-1と同じ。

●入力

- テキスト作成および入力では、底本を対象とした、本文の付け合わせ工程を必須とする
- テキスト作成および入力での基準となる誤入力率は99%とする

●校正

- 入力・作成したテキストは、校正業者による付け合わせ2回レベルの校正を行う
- 誤字・脱字の無いテキストが完成したら、電子書籍の制作に回す

●出版社による校正

- 制作会社の作業が完了すると、電子書籍ファイルが指定の校正用配信サーバーへ登録される
- 出版社は校正用配信サーバーから電子書籍ファイルをダウンロードし、PC上で確認。修正がある場合は制作会社へ指示をする
- リフロー型の校正は原則として初校・再校の2回のみで責了とする
- 出版社確認用の校正ビュアーによる修正方法などは、緊デジサイト上の「校正の手引き」を確認

●試し読み用ファイル

●ハウスルールと個別対応

すべてB-1と同じ。

制作会社様向け 電子書籍制作仕様書 ver 1.7

仕様で定義されていない製作時の詳細については、緊デジサイトに掲載してある「緊デジ制作ガイドライン」を参照する。ガイドラインは更新される可能性があるので、常に最新のものをダウンロードして確認すること。 http://www.kindigi.jp/download/

A-1:フィックス型電子書籍(一般書)

ここで定義するフィックス(固定)型とは、印刷底本をデジタルスキャンし、その画像を1冊の電子書籍としてまとめたものを言う。A-1では文章もの中心に一般書の仕様を規定し、コミックに関してはA-2で規定を行う。

●入稿データ

底本:1冊(可能な場合は2冊)カバー付き。これを入稿データとする。

- 版・刷は出版社の選択により、入稿されたものを「底本」とする
- 出版社には汚れ・破れ・乱丁のない底本を求めるが、届いた本がスキャン困難な場合は、中核企業のパブリッシング リンク(以下PL)へ連絡する
- 底本は断裁スキャンし、作業終了後に出版社へ返却する

●納品データ

PLへの納品データは4種類となる。

- 1. カバーおよび本文をスキャンし、補正したTIFF画像ファイル(→ アーカイブ用画像ファイル)
- 2. 配信用にビルド(パッケージ化)した電子書籍ファイル(→ 配信用電子書籍ファイル) フォーマットはXMDF、.book、EPUB 3のうちいずれか。制作指示書によって指定される
- 3. ビルド直前のソースおよび画像を含む作業ファイル一式 (→ **アーカイブ用中間作業ファイル**)
- 4. 先頭から総ページの10%分を抜き出した試し読みファイル (→ **試し読み用電子書籍ファイル**)

●スキャン範囲/範囲

カバー (ジャケット)

- 表1~背~表4~前後折返しまで全て連続したTIFF画像と表紙(カバー表1)のみのJPEG画像の2点を保存
- 保存する画像は矩形とし、切り抜きなどの処理は不要
- スキャンした画像はゴミとり、明るさ・コントラスト・シャープネスなどのレタッチをする
- スキャンカラー: RGBカラー(特色・特殊加工などのスキャン再現に問題がある場合は、PLに確認)
- スキャン解像度:300ppi/原寸/底本の仕上がりサイズのまま
- ファイル形式:連続画像はTIFF (LZW、Packbits、zipなど可逆式で圧縮)、単独表紙画像はJPEG (Photoshop JPEG: 8-高画質を目安)

底本

- 表1、表2、表3,表4、見返しは原則としてスキャン不要(見返し等に印刷があり、出版社の指示がある場合は必要とする場合もある)
- 口絵、写真、目次、索引、奥付、広告まで、すべてスキャンして保存する
- 本文中の白ページも、そのままスキャン保存する
- スキャンカラー: グレースケール (多色刷りページはRGBカラー)
- スキャン解像度:600ppi/原寸/底本の仕上がりサイズのまま
- 傾き: 版面・字面の0.5°以内とする
- 片ページごとの単独ファイルとする
- スキャンした1ページごとの単独画像は天地左右とも全ページ同じサイズにする
- 見開き画像のある底本の断裁は、ノド部分の欠損が最低限になるよう注意する
- ゴミとり、紙の地色をゼロに飛ばし、裏写りのないように。コントラストはやや高め
- ファイル形式:TIFF(LZW、Packbits、zipなど可逆式で圧縮)
- カラーのスキャン画質や色味について不安がある場合は、PLに相談する

●スキャン画像の保存フォルダ

- スキャン画像はルールに従ってフォルダにまとめる
- フォルダ名は 電子出版コード(JP-eコード) とする
- *詳細な保存ルール、ファイル形式およびファイル名などは巻末の(巻末資料1.ファイル/フォルダ保存・命名ルール)を参照

→ 本ファイルを(1)アーカイブ用画像ファイルとして納品する

●配信用電子書籍の制作

- 版面周囲(天地小口ノド)の余白は、特に指示がある場合以外トリミングせず底本そのままにする
- 電子書籍の1ページ目はカバー画像とする
- 制作指示書に従い、XMDFまたは.book、もしくはEPUB 3の指定配信形式で制作する
- 特に指示がある場合以外、購入者の印刷・コピーは禁止とする
- 閉じ方向と見開きページの指定を行い、見開き表示の時に左右の表示がずれないようにする。調整のため、場合によっては白ページを入れても良い
- 販売用のDRMは各配信書店側でかける
- JPEGの圧縮率は規定しない。にじみやノイズが出ない範囲で圧縮をかけ、サイズを小さくする。ただしファイルサイズが多少大きくなっても画質を優先させる

目次

- XMDFと.bookでは、目次ページ画像の該当文字列領域から該当本文画像へクリッカブルマップによる片方向の目次 リンクを作成する。EPUBではナビゲーション文書による目次を制作し、クリッカブルリンクは行わない
- 目次リンクは、章または節(章の上位に部がある場合は部を含む)の1階層下(上から二階層まで)までとする。ただし、底本の目次にノンブル表記がない場合は、ノンブル表記のある階層までとする
- 規定の校正は1回のみのため、目次リンク画像に対応する文字列を入力した場合は、社内での内校正をしっかりと済ませておく

電子化クレジット

- 電子化クレジットの原稿は緊デジの発注システムから取得する
- 巻末に以下の電子化クレジットを画像化して追加する。

書名 [必須] /著者名 [必須] /発行者名 [版元の任意] /発行 [必須] /(発行連絡先住所・URLなど) [版元の任意] /著作権 [版元の任意] /電子書籍発行日 [版元の任意] /電子書籍制作日 [版元の任意] /電子書籍制作会社 [推奨] /(その他注意事項:改ざん・複製禁止の断り書き。著者プロフィール。デザイン・イラスト・写真などの権利処理情報など) [版元の任意]

書名 銀河鉄道の夜

著者名 宮沢賢治

発行 JPO出版

〒○○○-○○○ 東京都新宿区XXX町○-○-○ 電話 ○○○○-○○○

著作権 (c) Kenji Miyazawa 20XX

電子書籍発行日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

電子書籍制作会社 〇〇〇〇印刷株式会社

• 電子化クレジットのフォントや組み体裁は制作会社に任せるが、不要な空白の削除などに留意してクレジット画像を 作成すること

ビルド (パッケージング/バイナリ化)

- 指示書に基づき、XMDF(v2.x) =.zbf形式、または.book形式、もしくはEPUB 3形式でビルドする
- 指定解像度はJPEG/長辺1536ピクセル。ターゲットデバイスは7インチタブレットとする
- JPEGの圧縮率は規定しない。にじみやノイズが出ない範囲で圧縮をかけ、サイズを小さくする。ただしファイルサイズが多少大きくなっても画質を優先させる
- 配信用電子書籍のファイル名は 電子出版コード(JP-eコード: 巻末資料2参照) +拡張子とする
- ビルドの前に文法チェックツールをかけ、エラーがないことを確認する。

TTX Analyzer (ドットブック)、

GALAPAGOS STORE向けコンテンツチェッカ (XMDF)、

IDPF EpubCheck ver.3.0 (EPUB3)

●出版社による校正

- 作業が完了したら、書き出した電子書籍ファイルを指定の校正用配信サーバーへ登録する
- 出版社が電子書籍ファイルをダウンロードし、PC上で確認。修正がある場合は制作会社へ指示が戻る

- フィックス型の校正は原則として確認の1回のみで責了とする
- 出版社確認用の校正ビュアーによる修正方法などは、緊デジサイト上で配布中の「校正の手引き」を確認
- 修正指示がある場合はアーカイブ用画像まで戻って作業し、再び電子書籍ファイルをビルドする
- **→ 校正が完了したビルドファイルを(2)配信用電子書籍ファイルとして納品する**
- **→ ビルド直前のソースと画像ファイル一式を(3)中間作業ファイルとして納品する**

.bookの場合はTTXファイル一式(ttx、prop、thumbnail.png、imgフォルダとリサイズ済み画像のセット)。 XMDFの場合は貼込み画像を含むXMDF記述ファイルを、EPUB 3はビルド前のファイル一式を納品する

- *保存時のファイル形式およびファイル名などは巻末の(巻末資料1.ファイル/フォルダ保存・命名ルール)を参照●試し読み用ファイル
- 配信用電子書籍のビルドが完了したら、その後に「試し読み用」のファイルを作成する
- 先頭から総ページの10%分を残して、残りを削除する
- 巻末の電子化クレジットを次のように変更する

試し読みはここまでとなります。この続きは製品版でお楽しみください。

→ 作成したファイルを(4)試し読み用電子書籍ファイルとして納品する

●納品方法

- (1) ~ (4) までのデータをフォルダに入れCD-R、DVD-R、BD-Rなどのディスクメディアに焼き、盤面に制作会 社名と納品日を記入してパブリッシングリンクへ納品する
- 同時に複数の納品がある場合も、1枚のディスク内に収まれば、まとめて納品して良い

*保存時のファイル形式およびファイル名などは巻末の(巻末資料].ファイル/フォルダ保存・命名ルール)を参照

●「緊デジ制作ガイドライン」について

各電子書籍(XMDFと.book)の緊デジ仕様用制作ガイドライン(タグ記述ルールなど)や標準設定ファイル等を緊デジサイトで配布する。ガイドラインは改定の可能性があるため、製作時には必ず最新版のガイドラインを確認の上、作業をすること。

制作会社が仕様する制作・校正用ツールなどは規定しない。最終的な納品物が配布するガイドライン内に沿ってさえいれば、製作用ツールを使用せずに、独自ツールやハンドコーディングによる作業をおこなってもよい。

.bookのライセンス費用のうち、ビルド費用はパブリッシングリンクが一括してボイジャーに支払うため、制作会社はビルド代の負担はしなくてよい。(ボイジャーとの契約に関し、ツールやTTX仕様書の提供・サポート等を含むライセンス契約は通常と同じになります。当初、誤解を招く説明がありましたことをお詫びします)

緊デジ仕様に沿ったXMDFの制作ツールおよび操作マニュアルはシャープから販売中。代理店である株式会社デジタルディレクターズ(kindigi@d-directors.co.jp)まで問い合わせる。

●EPUB 3制作時の注意

緊デジで制作するEPUB 3の仕様は、日本電子書籍出版社協会が発表した「電書協EPUB 3 制作ガイド (Ver.1.1)」に 準拠する。ただし、電書協ガイドでは規定されている機能や表現方法が広く、また各版元に判断がゆだねられている箇 所があるため、緊デジ用の範囲を定めたテンプレート・ファイルを配布している。

緊デジ仕様のEPUBを制作する場合は、このテンプレート・ファイルをサンプルとして利用すること。基本的に「緊デジ」事業では、このファイル内で規定された範囲内の方法で制作を行うが、やむを得ずテンプレート・ファイルを超えた表現をする場合は、すべて電書協ガイドの範囲内で記述すること。

【フィックスEPUB制作時の注意点】

- 電書協EPUB 3 制作ガイド(Ver.1.1) に準拠
- ファイルIDとしてJP-eコードを採用
- 電書協の用意したタグやCSSクラスの内、最低限のもののみを使用
- ソース内のコメントアウトや改行位置、インデントなどの記述方法は制作会社の裁量とする
- 画像のファイル名などは特に規定しない
- 目次はテキストを入力し、navigation-documentsファイルからの片リンクとする
- 見開きページがある場合は左右がずれないように指定・制作する。 場合によっては白ページを入れるなどして調整してもよい
- クリッカブルマップによるリンク(目次も含む)は使用しない
- 画像は長辺1536ピクセル以内のJPEGファイルとする

opfファイル内の書誌情報は、書名、著者名、出版社程度の最低限とする。aut(著者)、trl(訳者)、edt(編纂)などの規定値は、ONIX仕様のContributor Roleを参照。

http://www.oclc.org/research/publications/library/2010/2010-14a.xls

「電書協EPUB 3 制作ガイド」の最新版は、こちらから入手できる。

http://www.ebpaj.jp/guide.html

※リフロー型の制作時にWindows版のReadiumでチェックをする場合は、book-style.css内で「@import "style-check.css":」を一時的に読み込んで作業する。

A-2:フィックス型電子書籍(コミック仕様)

フィックス型電子書籍の制作で、コミックの場合も基本的な仕様はA-1とまったく同じとなる。ただし、コミックの場合は一般書など文字ものに比べ、スキャン画質やモアレの低減、ゴミ取りなどの品質要求が高くなる点に留意して制作を進めていただきたい。

●入稿データ

底本:1冊(可能な場合は2冊)カバー付きで各制作会社へ入稿

- ◆ ただしコミックの場合は印刷本からのスキャンだとモアレの発生が避けられないため、出版社が高解像度の画像データ(吹き出し内の文字入り)を所持している場合は、底本プラス画像データでの入稿も受け付ける
- 画像データの形式は300ppi以上のJPEG、TIFF、PDF、PSDなど。CD-RやDVD-Rなどに保存して底本に添付する

●納品データ

- ●スキャン範囲/範囲
- ●スキャン画像の保存フォルダ

以上はすべてA-1と同じ。

●配信用電子書籍の制作

- A-1と同様に600ppiでのスキャンを行い、裏写り、コントラスト、ゴミ取りなどの処理を行ったのち、長辺1536ピクセルのJPEGにリサイズする。
- 可能な限りゴミ取りおよびモアレの低減を行う。方法や数値に関しては各制作会社の裁量に任せる
- 見開きページの表示で左右の位置ズレが起きないよう、版面の位置合わせを厳密にする他はすべてA-1と同じ。

●出版社による校正

すべてA-1と同じ。

→ 納品ファイル(1)(2)(3)(4)

- 画像データによる入稿で画像が600ppi以下の場合は、入稿時の解像度のままファイル名を緊デジ仕様にしてアーカイブ保存(1)する。
- 配信用電子書籍ファイル(2)、 中間作業ファイル(3)、 試し読み用電子書籍ファイル(4) についてはすべてA-1 と同じ。

●納品方法

●EPUB制作時の注意

すべてA-1と同じ。

B-1:リフロー型電子書籍(DTPデータから制作する場合)

●入稿データ

底本: 1冊(可能な場合は2冊)カバー付き。これを入稿データとして、つけあわせ確認に使用する。

- 版・刷は出版社の選択による。底本とDTPデータで違う場合は、指示書でどちらを採用するか確認する
- 底本は断裁可。 断裁した場合でも作業終了後に出版社へ返却する

DTPデータ:印刷入稿時に使用したDTPデータ。底本へCD-RまたはDVD-Rを添付する。

- InDesign CS以上、QuarkXPress 4.1以上を限定
- 出版社は、OSバージョンおよびアプリケーションバージョンをわかる範囲で記入

●納品データ

PLへの納品は4種類となる。

- カバーをスキャンし、補正した画像ファイルー式(→アーカイブ用カバー画像ファイル)
- 2. 配信用にビルド(パッケージ化)した電子書籍ファイル(→ **配信用電子書籍ファイル**) フォーマットはXMDF、.book、EPUB 3が指示書によって指定される
- 3. ビルド直前のソースおよび画像を含む作業ファイル一式 (→ **アーカイブ用中間作業ファイル**)
- 4. 先頭から総ページの10%分を抜き出した試し読みファイル (→ **試し読み用電子書籍ファイル**)

●カバー(ジャケット)スキャン仕様

- 表1~背~表4~前後折返しまで全て連続したTIFF画像と表紙(カバー表1)のみのJPEG画像の2点を保存
- 保存する画像は矩形とし、切り抜きなどの処理は不要
- スキャンした画像はゴミとり、明るさ・コントラスト・シャープネスなどのレタッチをする
- スキャンカラー: RGBカラー(特色・特殊加工のスキャン再現に問題がある場合は、PLに確認)
- スキャン解像度:300ppi/原寸/底本の仕上がりサイズのまま
- ファイル形式:連続画像はTIFF(LZW、Packbits、zipなど可逆式で圧縮)、単独表紙画像はJPEG(Photoshop JPEG:8-高画質を目安)
- ルールに従ってフォルダにまとめる。フォルダ名は電子出版コード(JP-eコード) とする
- *詳細な保存ルール、ファイル形式およびファイル名などは巻末の(巻末資料].ファイル/フォルダ保存・命名ルール)を参照
- * スキャンではなくDTPデータからの画像書き出しでも可。その場合は使用フォントや版・刷の違いに注意する

→ 本ファイルを(1)アーカイブ用カバー画像ファイルとして納品する

●電子化の範囲

- 出版社からの指示がない場合は、扉から目次、本文、あとがき、索引や装幀クレジットなどまですべて入れる
- 巻末の書籍広告は入れない
- 表組や複雑なレイアウトの体裁を崩せないページはスキャン画像として挿入する
- 奥付は底本の奥付ページをスキャンし、「底本奥付」という小見出しを立てて画像を巻末に挿入する

●画像(イラスト・写真・図表)

- 本文中のイラスト・写真・図版、表組などは、すべてビットマップ画像(JPEG/PNG)として挿入する *画像ごとに未使用を選択する場合は、出版社が底本へ指示の付箋を付けることがある
- 画像は底本からスキャンするか、DTPデータの貼込画像から取り出す
- 底本の奥付はスキャン画像として保存し、本文巻末に使用する
- ビットマップ画像のサイズは、ターゲットデバイスである長辺1536ピクセル以内とする
- JPEGの圧縮率は規定しない。にじみやノイズが出ない範囲で圧縮をかけ、サイズを小さくする
- 小画像(ページ幅60%以内)は、文章に追随するように、サイズを調整して近傍の段落の間へ挿入する
- 大画像(ページ幅60%以上)は、サイズを調整して、単独1ページで表示する
- 図表のキャプションやクレジット文字などは画像と一緒にビットマップ化する

●配信用電子書籍の制作

- DTPデータよりテキストを取り出し、指示書に基づいてXMDFまたは.bookまたはEPUB3形式の電子書籍を制作する
- 縦組み(右綴じ)/横組み(左綴じ)の指定は底本に合わせる
- 特に指示がある場合以外、購入者の印刷・コピーは禁止とする
- 販売用のDRMは各配信書店側でかける
- DTPデータからのテキスト取り出しは、制作ツールによるIDMLファイルからの変換や、テンプレートを使用した別レイアウトへのコピー&ペーストによる移動の後にXML形式で書き出す方法などを想定
- [表紙] [本扉] の次、 [目次] の前に組み方向表示の補足文ページを入れる(下記は縦組みの例)

この電子書籍は、縦組の底本を元に作成しました。

●「緊デジ制作ガイドライン」について

XMDFと.bookの緊デジ仕様用制作ガイドライン(タグ記述ルール、目次リンクの作成方法、見出しレベル、フォント指定、ルビや圏点、突き出しインデントの扱い等)や標準テンプレートファイル等を緊デジサイトで配布する。ガイドラインは改定の可能性があるため、製作時には必ず最新版を確認の上、作業をすること。

制作会社はシャープおよびボイジャー社のビルドツールおよび制作・校正用ツール、フォーマット仕様書やマニュアルなどを利用できる。しかし、最終的な納品物が配布するガイドライン内に沿ってさえいれば、製作用ツールを使用せずに、独自ツールやハンドコーディングによる作業をおこなってもよい。

.bookのライセンス費用のうち、ビルド費用はパブリッシングリンクが一括してボイジャーに支払うため、制作会社はビルド代の負担はしなくてよい。(ボイジャーとの契約に関し、ツールやTTX仕様書の提供・サポート等を含むライセンス契約は通常と同じになります。当初、誤解を招く説明がありましたことをお詫びします)

緊デジ仕様に沿ったXMDFの制作ツールおよび操作マニュアルはシャープから販売中。代理店である株式会社デジタルディレクターズ(kindigi@d-directors.co.jp)まで、件名に【緊デジ製作ツール】と入力し、連絡先(社名、部署名、担当者名、メールアドレス)を記載のうえ問い合わせる。

リフロー型EPUB 3に関する制作ガイドラインは、日本電子書籍出版社協会が発表している「電書協EPUB 3 制作ガイド」に準拠する。また、テンプレートとして使用するための「緊デジEPUB 3サンプルファイル」を配布する。

目次

- 目次リンクは、章または節(章の上位に部がある場合は部を含む)の1階層下(上から二階層まで)までとする。ただし、底本の目次にノンブル表記がない場合は、ノンブル表記のある階層までとする
- XMDFと.bookは、章・見出しなどの大項目は相互リンク、その下の小項目は片リンクとする。EPUB 3の場合は、本文内の目次ページから片リンクを貼り、ナビゲーション文書には表紙・目次・電子化クレジットの最低限のみを片リンクで記述する。
- 本文中のインターネットURLや注釈などはリンク設定しない

外字・異体字

- JIS第一、第二水準および半角文字の範囲を超える外字や記号は、PNG画像をインラインの外字指定で配置する
- PNG画像は、白黒インデックス/128×128ピクセル とする
- ファイル名は [cid-+5桁のCID番号+拡張子] とする。例:cid-08370.png
- 画像外字を作成するフォントは、事前に申告したもののみ使用する

電子化クレジット

- 奥付は底本から画像として取り出し、「底本奥付」という小見出しを画像に入れて、巻末に挿入する
- 底本奥付の後に電子化のクレジットページを追加する

書名 [必須] /著者名 [必須] /発行者名 [版元の任意] /発行 [必須] / (発行連絡先住所・URLなど) [版元の任意] /著作権 [版元の任意] /電子書籍発行日 [版元の任意] /電子書籍制作日 [版元の任意] /電子書籍制作会社 [推奨] / (その他注意事項: 改ざん・複製禁止の断り書き。著者プロフィール。デザイン・イラスト・写真などの権利処理情報など) [版元の任意]

• 電子化クレジットの原稿は緊デジの発注システムから取得する

書名 銀河鉄道の夜

著者名 宮沢賢治

発行 JPO出版

〒○○○-○○○ 東京都新宿区 X X X 町○一○一○ 電話 ○○○○一○○○○

著作権 (c) Kenji Miyazawa 20XX

電子書籍発行日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

電子書籍制作会社 〇〇〇〇印刷株式会社

• 電子化クレジットのフォントや組み体裁は制作会社に任せるが、不要な項目の削除などに留意すること

ビルド (パッケージング/バイナリ化)

- 指示書に基づき、XMDF (v2.x) =.zbf形式、.book形式、またはEPUB 3形式でビルドする
- 指定解像度はJPEG/長辺1536ピクセル。ターゲットデバイスは7インチタブレットとする
- 配信用電子書籍のファイル名は 電子出版コード (JP-eコード: 巻末資料2参照) +拡張子とする

• ビルドの前に文法チェックツールをかけ、エラーがないことを確認する。

TTX Analyzer (ドットブック)、

GALAPAGOS STORE向けコンテンツチェッカ (XMDF) 、

IDPF EpubCheck ver.3.0 (EPUB3)

●出版社による校正

- 作業が完了したら、書き出した電子書籍ファイルを指定の校正用配信サーバーへ登録する
- 出版社は電子書籍ファイルをダウンロードし、PCで確認。修正がある場合は制作会社へ指示が戻る
- リフロー型の校正は原則として初校・再校の2回のみで責了とする
- 出版社確認用の校正ビュアーによる修正・戻りの方法などは、緊デジサイト上で配布中の「校正の手引き」を確認
- 修正作業が完了したら、再び配信用の電子書籍ファイルをビルドする
- → 本ファイルを(2) 配信用電子書籍ファイルとして納品する
- → ビルド直前のソースと画像ファイル一式を(3)中間作業ファイルとして納品する

.bookの場合はTTXファイル一式(ttx、prop、thumbnail.png、imgフォルダとリサイズ済み画像のセット)。 XMDFの場合は貼込み画像を含むXMDF記述ファイルを、EPUB 3はビルド前のファイル一式を納品する。

*保存時のファイル形式およびファイル名などは巻末の(巻末資料1.ファイル/フォルダ保存・命名ルール)を参照

●試し読み用ファイル

- 配信用電子書籍のビルドが完了したら、その後に「試し読み用」のファイルを作成する
- 先頭から総ページの10%分を残して、残りを削除する(奥付も不要)
- 巻末の電子化クレジットを次のように変更する

試し読みはここまでとなります。この続きは製品版でお楽しみください。

→ 作成したファイルを(4)試し読み用電子書籍ファイルとして納品する

●納品方法

- (1) ~ (4) までのデータをフォルダに入れCD-R、DVD-R、BD-Rなどのディスクメディアに焼き、盤面に制作会 社名と納品日を記入してパブリッシングリンクへ納品する
- 同時に複数の納品がある場合も、1枚のディスク内に収まれば、まとめて納品して良い

*保存時のファイル形式およびファイル名などは巻末の(巻末資料1.ファイル/フォルダ保存・命名ルール)を参照

●EPUB 3制作時の注意

緊デジで制作するEPUB 3の仕様は、日本電子書籍出版社協会が発表した「電書協EPUB 3 制作ガイド (Ver.1.1)」に 準拠する。ただし、電書協ガイドでは規定されている機能や表現方法が広く、また各版元に判断がゆだねられている箇 所があるため、緊デジ用の範囲を定めたテンプレート・ファイルを配布している。

緊デジ仕様のEPUBを制作する場合は、このテンプレート・ファイルをサンプルとして利用すること。基本的に「緊デジ」事業では、このファイル内で規定された範囲内の方法で制作を行うが、やむを得ずテンプレート・ファイルを超えた表現をする場合は、すべて電書協ガイドの範囲内で記述すること。

【リフロー型EPUB制作時の注意点】

- 電書協EPUB 3 制作ガイド(Ver.1.1) に準拠
- ファイルIDとしてJP-eコードを採用
- 電書協の用意したタグやCSSクラスの内、最低限のもののみを使用
- ソース内のコメントアウトや改行位置、インデントなどの記述方法は制作会社の裁量とする
- 画像のファイル名などは特に規定しない
- navigation-documentsファイルは簡易にして、書籍中の目次ページへ誘導
- 見出しは次の3つを使用

大見出し(ゴシック体/サイズ160%)

中見出し(ゴシック体/サイズ140%)

小見出し(ゴシック体/サイズ100%)

- 縦組みでページの左右中心に文字を配置したい場合は、画像にして配置する
- 通常のカバーページがある場合、タイトルページ(p-titlepage.xhtml)は使用しない。カバーが無地や文字の判読が不能の場合などに、版元の指示において使用する
- 外字以外の画像は長辺1536ピクセル以内のJPEGファイルとする
- 制作各社でCSSのクラスを再定義する場合は「book-style.css」内のカスタマイズ領域へ記述する。

opfファイル内の書誌情報は、書名、著者名、出版社程度の最低限とする。aut(著者)、trl(訳者)、edt(編纂)などの規定値は、ONIX仕様のContributor Roleを参照。

http://www.oclc.org/research/publications/library/2010/2010-14a.xls

「電書協EPUB 3 制作ガイド」の最新版は、こちらから入手できる。

http://www.ebpaj.jp/guide.html

※リフロー型の制作時にWindows版のReadiumで確認をする場合は、book-style.css内で「@import "style-check.css":」を一時的に読み込んで作業する。

B-2:リフロー型電子書籍(印刷底本からテキスト作成する場合)

DTPデータが無く、印刷底本よりテキスト作成をするリフロー型電子書籍の制作では、B-1と比べて入稿データ形式と 校正方法のみが違い、それ以外はまったく同じとなる。制作の詳細はB-1を参照。

●入稿データ

底本: 1冊(可能な場合は2冊)カバー付きで各制作会社へ入稿

- 底本からの原稿テキスト作成方法(OCR利用などの入力方法)は、特に規定しない
- 版・刷は出版社の選択による
- 底本は断裁可。 断裁した場合でも作業終了後に出版社へ返却する

●納品データ

- ●カバー(ジャケット)スキャン仕様
- ●電子化の範囲
- ●試し読み用ファイル
- ●EPUB 3制作時の注意

すべてB-1と同じ。

●入力

- テキスト作成および入力では、底本を対象とした、本文の付け合わせ工程を必須とする
- テキスト作成および入力での基準となる誤入力率は99%とする。

●校正

- 入力・作成したテキストは、校正業者による付け合わせ校正2回レベルの校正を行う
- 誤字・脱字の無いテキストが完成したら、電子書籍の制作に回す

●出版社による校正

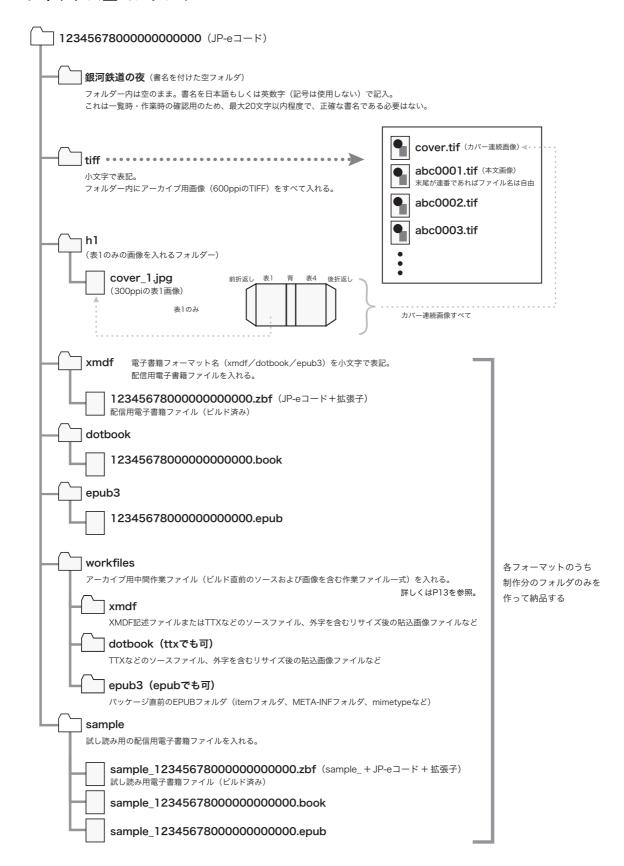
- 制作会社の作業が完了すると、電子書籍ファイルが指定の校正用配信サーバーへ登録される
- 出版社は電子書籍ファイルをダウンロードし、PCで確認。修正がある場合は制作会社へ指示が戻る
- リフロー型の校正は原則として初校・再校の2回のみで責了とする
- 出版社確認用の校正ビュアーによる修正・戻りの方法などは、緊デジサイト上で配布中の「校正の手引き」を確認
- 修正作業が完了したら、再び配信用の電子書籍ファイルをビルドする

→ 納品ファイル(1)(2)(3)(4)

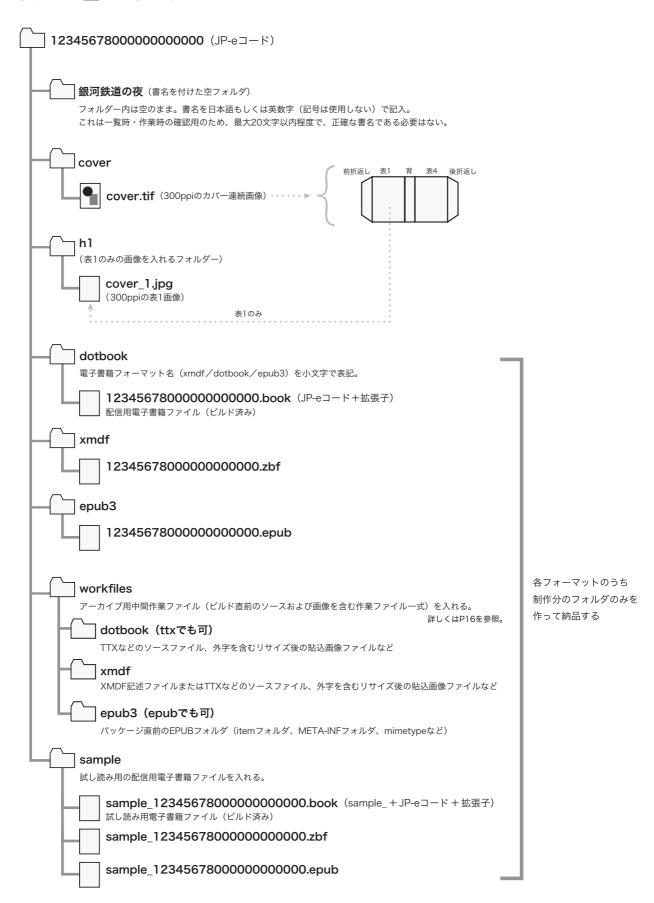
すべてB-1と同じ。

●資料1 ファイル/フォルダ保存・命名ルール

フィックス型コンテンツ



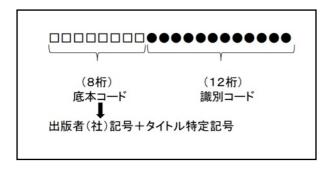
リフロー型コンテンツ



● 資料2 JP-eコード (電子出版コード)

電子出版コード(略称 JP-eコード)は、デジタル化されたコンテンツ商品の商取引・流通管理に主として使用される、商用を目的とした20桁のコード体系である。ISBNコードとは異なる。

12桁部分は出版社が自由裁量で付番する。指示のない場合は「緊デジ」受注時にJPO(日本出版インフラセンター)がシステムにより自動で付番する。



※ コードには数字とアルファベット(大文字・小文字)のみが使用できる。

●底本がある書籍の場合

- ・ISBNコードのうち、頭4桁と最後のチェックデジットを除く8桁を底本コードとする。
- ・識別コードは出版社の自由裁量と責任によって付番できる。
- ●ISBNコードが付与されていない書籍の場合
- ・底本がある場合に準じ、ISBNを付番する。
- ・底本コード部分には数字のみ使用を推奨。
- ・タイトル特定記号を未使用のコードで標記。

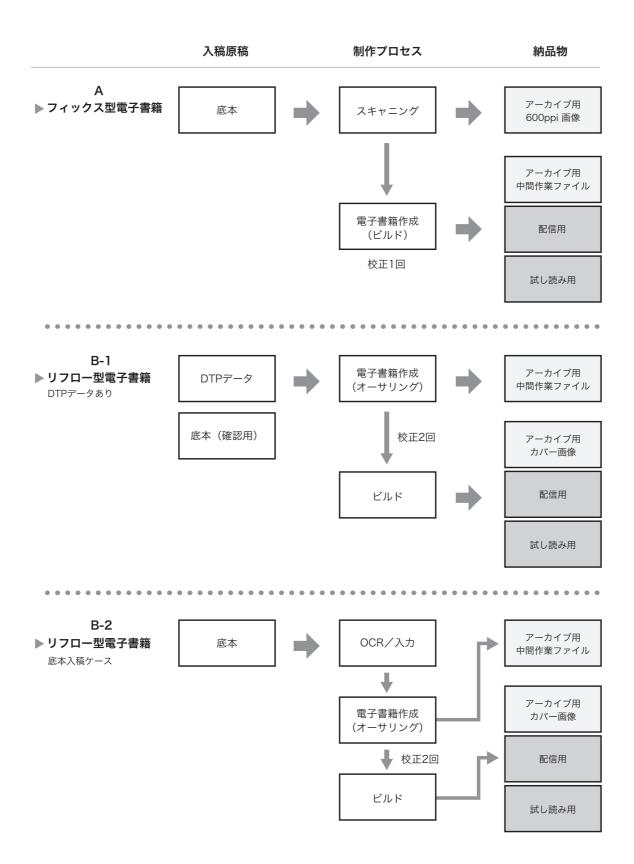
将来、印刷出版物を刊行する際はこのコードを使用する。

JP-e (電子出版) コードに関する詳細は「緊デジ」サイトの資料ダウンロードページからも入手できる。 2012年3月25日JPO配布資料3-3 電子出版コード (PDF)

http://www.kindigi.jp/download/

●資料3 補足情報

入稿原稿 制作プロセスと納品物のまとめ



緊急デジタル化支援事業では、最新情報やFAQなどをサイトに掲載しています。 http://www.kindigi.jp/



この「制作仕様書」(本文書)と「緊デジ制作ガイドライン」は予告なく改定される場合があります。常に最新版を緊 デジサイトからダウンロードして確認してください。

コンテンツ緊急電子化事業 電子書籍制作仕様書

発 行 ● 日本出版インフラセンター(JPO)

発 行 日 ● 2013年2月28日 ver. 1.8

制作協力 ● (株) パブリッシングリンク + (株) 出版デジタル機構